

ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報紙

Take free!

なな

4 月号
vol. 098



特集：都市のインフラ

人がまちに
やってくる

When The Someone Go Marching In

特集：都市のインフラ

人がまちにやってくる

When The Someone Go Marching In



店舗を改装する

GO まち ING — 大正区

家屋が建てかわり、店舗が入れかわる。少しずつ見なれたまちの風景が変化していく。人がまちに集り新しいまちをつくる。まちに暮らす人がそのまちをつくる。まちは誰かによってつくられ、まちが誰かを誘う。まちは刻々に変わっていく現在進行形をあらわしている。

まちの変化はくらしの変化であり、社会の変動でもある。私たちのまなざしが、まちの微細な変化や兆しに気がついたなら、新しいまちのかたちを想像し、創造していけるかもしれない。

まちへのまなざしを大切にすると人たちが、人とまちのかかわりをつくりだすエンジンとなる人たちの活動を、大正、阿倍野、西成の三区に追った。

「GO まち ING」の第1回は大正区からはじまります。

1 まちを舞台に

大正という名は、木津川にかけられた大正橋に由来する。大正区は、沖縄県からの移住者が多く、沖縄料理店も多い。鉄道の駅はJRと地下鉄「大正駅」のみである。一方で、バス便は多く、例えば大正橋から区役所へは1時間に17本が走る。中には「急行」があるなど、バス路線は発達している。区全体が川と海に囲まれた島状の地形であり、隣の西成区とは橋だけでなく木津川をはさむ渡船でも結ばれている。

このまちで、リノベーションをキーワードに新しい試みがスタートすると聞き、参加してみることにした。リノベーションは、建築やまちづくりの場面で最近よく耳にする言葉である。既存の建物を改修して、新しい用途や機能、そして価値を高めていくことを指す。昨今、空き家問題など建物の使い方に対する発想の転換が求められて、このリノベーションもブームになっている。

今回、参加したのは1月30日から2月1日に開催された「まちづくりキャンプ」と呼ばれるイベントであ

る。トークセッションをはじめ、実践的なレクチャーやワークも交えた3日間の参加型イベントである。各地で活躍する「まちづくり」などのプロとともに、地域の価値を高める方法論を考える場となった。リノベーションはその一つの手法である。そこでキーワードになっていたのが、3日間で行った計画を実践に移そう、というものである。例えばまち歩きをして、発見したものをワークセッションで共有し、「いい勉強になった」という次のステップに、3日間の成果を盛り込むプログラムとなっている。

チームを組んでいくつかのコースに分かれて、それぞれの課題をこなしていく。①オーナーと交渉し、住み手・買い手を具体的に決めていくコース。②商店街にある空き倉庫を、既製品や業者任せにせず自分たちでつくるDIYで改装していくコース。③小さなカフェから商店街をどう元気にできるか検討していくコースなどである。そしてトーク企画なども交えながら、多種多様な地域で活動する人たちと出会うことができた。



2 各地の取り組み、まちづくりの最前線

3日間のプログラムでは、今、そしてこれからのまちづくりでキーワードとなる言葉が飛び交った。いくつかの言葉と並べてみる。

「地域再生」ということに関して、ただ色んなイベントを繰り返してもまちが変わらない。何のためにだれが何をできて、そして何ができないか。シンプルなメソッドを通じてまちを変化させることが求められる。

「自分のまち」をもっと好きになろうとの呼びかけは、まちを楽しめるコンテンツと捉え、そのつなげ方・伝え方についての話が出てきた。

まちづくりのベースをパソコンの基本ソフト「OS（オペレーションシステム）」とかけ、革



①トークセッション



④まち歩き



②まち歩き



⑤発表



③まち歩き



⑥懇親会

新たな「アプリ（アプリケーション）」＝新しい取り組みを受け入れていく素地にどう切り替えていくか、そのポイントをつくる話題もあった。その他にも、「不動産」の価値の転換や、自分たちでつくることを楽しむ「DIY（Do It Yourself）」、「商い」とお店と地域のつくり方など、様々なヒントが提示された。

3 他業種・多世代のチームで考える

今回、私は「小さなカフェプランニング」を考えるコースに参加した。4人がチームを組んで、具体的に計画を考えていく。ここで、そのレポートをしてみたい。

まず、1日目は地域のまち歩きを行った。どのようなまちなのか、まずは自分たちの目で確かめ、

気づきを出し合っていく。メンバーは福祉デザイナー、建築、まちづくりなど、業種も世代も価値観も違う人たちが集まった。まち歩きやテーブルワークなど、共同作業で体験を分かち合いながら、価値観を越えて個々の発見を共有化していく。

このように、すべての声を集めて並べていくダイアログ（対話）を通じて、主に区民としてではなく外からの目として大正を捉えなおした。その後「ディスカッション（議論）」を重ね、沖縄文化だけでなく、それも含めた「大正文化」を子育て中の母親に知ってもらい、親子で大正に愛着を持ってもらいたいという店のコンセプトにつなげていった。

そこでのやりとりを少し紹介したい。ポイントは、小さなカフェづくりについて実行に移すことを前提としながら計画を練ることである。誰に向けて、何をやるか？ 何が必要で、どうできるか？ 出てきた意見を、徐々に具体的にしていっていった。

例えば、「ヘルシーな沖縄素材をふとしたところを感じてもらえるエッセンスを取り入れよう」という意見は、若い世代が沖縄の文化に触れられる機会が少ないのではという気づきから出てきた。このカフェを通じて、若い母親たちが大阪と沖縄の文化を感じ、愛着を持てるようなきつかけになれば、まちのファンが増えていく。そんなビジョンを持って、カフェづくりを考えていった。

では、どこでそれをやるのか？ 対象物件は大

いく姿勢だ。このこだわりが、小さなところから人を巻き込み、まちを変えていく兆しとなっている。「人がまちにやってくる」きつかけとなっていた。

まちには風土というものがある。その土地の文化でもあり、らしさにもなる。この風土とは「風」と「土」。風のように外から来て種をまく人と、その土地に暮らす地の人が織りなすのが風土であり、地域を形づくる。

今回のチームは商店街を単位に一つの店舗を計画した。メンバーは地元ではなく、地域からすると「よそ者」チームである。地域の人もわずかなではあるけれどまちを歩き、話を聞き、考えを共に広げた。そのためには、まずはすべての人が話し、すべての人の話を聞き、それぞれが主体的に受けとめていくダイアログの場が必要となる。

しかし、その場を大きく生み出すことはかなり難しい。最近だと、大阪市では町会や地域で取り組む団体、NPOなどを幅広くネットワークしていく地域活動協議会ができた。ほぼ小学校区単位の地域である。地域を良くしようと試みられているが、そこに希望の兆しはあるだろうか。身近なものと小さな場で対話がないと、一足飛びに多様なメンバーで語り合うことは困難な場合も多い。今回の3日間のような小さな場の積み重ねも力になるかもしれない。そしてこの対話の文化が、まちのイノベーションにつながれば良いと思う。

「4th street bagel」という人気店

正区平尾の商店街の一角にある。空き倉庫で、別のコースのメンバーが自分たちで改装を行っていた。改装費用など経済性を考え、有効活用しようという算段である。

この商店街は、特別ににぎわっている様子はないが、シャッター通りという印象もなく、よくある商店街である。ここに昔から住んでいる人たちが主な利用者だ。引越してきたり、お店を開いたりした若い世代も、商店街を使い楽しめるような仕掛けがあれば、新しい活気が生まれると考えた。

4 まちの兆しを捉える

最後に紹介した人気のベーグル店もそうだが、今回のコースを通じて考えた小さなお店は一つのヒントに思えた。すでに大正区で地域内外から人を引き寄せる場となっている事例でも、民族楽器のAvailon Spiral、フクロウ雑貨のhoho、そして天然素材ドーナツのプラリなど、個々にオリジナリティがキラリと光る。

それらに共通していたのは、自分たちなりの働き方と場所を探し、その可能性にチャレンジして

サウスオブミナミ

特集と連動！ 大正のまち歩き編

大正と言えば、沖縄？ 川と海？ 埋立地？ 港と工場？
今回は、「人がまちにやってくる」に連動するため、西成区の西隣、大正区を訪ね歩いてみました。イメージだけではない、新しい若者たちのチャレンジや、親しみやすさ、優しさを感じられる大正のまちに出会いました。

まちの有名店はこだわり抜群



どことなくゆっくりと時間が流れるまち。そんな雰囲気に合わせて自然体な暮らしも。写真はこだわりのベーグルのお店です。

工場が建ち並ぶ臨海エリア



大正区は川や海にすっぽり囲まれています。沿岸部はいろんな種類の工場や、大きな造船所も。

大正通

大正と言えば沖縄、沖縄と言えばシーサー



シーサーは伝説の獣で、魔除けにと屋根の上などに据え付けられます。大正区の屋根には何体いるかな？

小林公園



もともとは海！？

沖縄の建物を模した装飾がちらほら



大正内港

大正の風土は、沖縄にも通じています。まちの風景にも大正版「沖縄造形」が見え隠れします。

大正は埋め立てでできたまち。そんな歴史を小学生が再現？ 壁面を使ってカラフルにまちなみを演出。

カラフルシーサーでみんな元気に



シーサーはみんなの人気者。子どもたちも一緒に作る新しい大正ユイマールで商店街を盛り上げたい！

平尾公園

サックス平尾
(平尾商店街)

商店街には、リノベーションした新しいスペースが



新しいチャレンジを受け入れる土壌も。商店街の空き倉庫を手づくりで改装して、地域の活性化に。

オシャレなお店も発見、若者たちも活躍



いろんな文化が混じりながら、独特の優しさをもつまちは、若い人たちも魅了。ここにしかないお店が増えています。

木津川

アイランド大正



巨大な水門など迫力のある水辺も魅力的。

特徴的な看板、昔の名残を感じます



ちょっと目を引く看板。その面影は時間の流れを感じられます。まちの新陳代謝は全国共通の課題です。

ナイスな仲間たち

「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

VOL.13 レストラン ぐらん・じゅ



「ぐらん・じゅ 優良」試食会を開催しました！

国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」のCAFÉ & DINING『ぐらん・じゅ』では、摂食支援の新メニューとして「ぐらん・じゅ優良」の試食会を開催し、4月からお客様に提供できるよう準備をすすめています。

試食会のメニューでは、ディナーをイメージした3種類のメイン「A：ハンバーグ」「B：牛肉の赤ワイン煮」「C：ホタテ貝のガーリック焼き」と、「彩り野菜のコンソメ煮+おかゆorライス+スープ+デザート」のセットメニュー、朝食をイメージした「和：銀じやけの塩焼き+出し巻き卵+味噌汁+おかゆorライス+デザート」「洋：鶏とジャガイモのバター醤油+スクランブルエッグ+スープ+おかゆorライス+デザート」を用意しました。



通常の料理とかわらない見た目のまま、歯でかみ切らなくても食べられるやわらかさ、ダシをきかせたしっかりした味付けが好評でした。

「ぐらん・じゅ優良」のコンセプトは、かむに自信のなくなった方でも召し上がっていただける「やわらかさ」と、そして思い立った時にご家族やお友達と外食を楽しんでいただけの「気軽さ」です。いつでもご予約なしでご利用させていただきます(※)。

(中嶋まどか)

※ご予約なしでご利用させていただきますが、優食の注文が続きますと、調理方法の違いによりお時間をいただく場合がございます。団体利用の場合は、ご予約をおすすめいたします。

4月からの新メニュー「ぐらん・じゅ優良」お楽しみに♪

レストラン ぐらん・じゅ
7:00 ~ 21:00 (ラストオーダー 20:30)
ご予約・お問合せ
TEL&FAX: 072-290-0917
大阪府堺市南区茶山台1-8-1
国際障害者交流センタービッグ・アイ1階

い湯かげん

住宅扶助を活かせる改革か

社会保険審議会の生活保護による住宅扶助引き下げの提案を受けて、厚労省はこの7月から、大阪市の場合で、4万2千円だった限度額を3万9千円に減額することを決めた。生活保護は「減らすvs守る」ではなく「活かす」のが改革と、ボクは「いい湯加減」でも何度となく書いてきたから、この減額には怒り心頭だ。

審議会の賢者たちは、「高止まり」とか「貧困ビジネス」などと議論し減額したのだらうが、貧困ビジネスやってる事業者には痛くも痒くもない。何故なら、そもそも3万9千円でも高すぎるほどの老朽、狭小、貧弱な住

宅だからだ。むしろ、4万2千円で良質な住宅、支援のある住まいを供給しようと奔走している社会的企業が打撃を被っているまい、元の木阿弥になって、貧困ビジネスを延命させてしまうことになる。だいたい、生活保護になると途端に経済を忘れて、妙な道徳観を持ち出して失敗するのは、「経済成長病」を患ったお稚児さん官僚の特徴だ。

ボクの「活かす」改革はいったってシンプルだ。せっかくの住宅扶助で、良質で支援のある住宅を提供する事業者が出てくれば、良貨が悪貨を駆逐する。それに、(株)ナイスの住宅のように新築

でも住宅扶助で入居できれば、若い人たちも住んでくれるし、地域に良質な住宅がストックされることになる。せっかく「集住地域」西成区にそういう社会的企業が芽生え、「西成特区構想」という地域戦略も出てきたことぐらい賢者が知らないはずはないのだから、好循環が起こるのを待ったら良かったのだ。

さて、お上の仰せだからしかたないのだから善後策を講じないといけない。月額3000円の減額は100戸なら年額360万円で、入居者支援の原資が丸々とんでしまう額になる。そうすれば、入居者も拠出する「互助」の仕組みを検討できないものか。いま建設中のパークコートでは地域立社会福祉法人が33戸のサ高住を展開し、住宅扶助を想定した「応能家賃」の導入を検討してくれているが、それも一計だ。それより先に、従前入居者が追い出されないような法的措置(供託という方法

もあるのか?)も検討しなければならぬのか。なかなかの知恵と力が必要だが、まだ構想はまとまらない。

そういえば、民主党政権の「事業仕分け」の時もそうだったが、木を見て森を見ない改革だった。同じく民主党の「求職者支援法」も同じ誤りで、名は体を表さなかった。ボクたちは、それでもAダッシュワーク創造館という国の地域職業訓練センターを社会的企業で守り抜いてきた。今度もお国の「賢い頓馬」の尻を拭かないといけない羽目になったが、「社会住宅」の旗は守り抜きたい。



(株)ナイス代表取締役
富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[田岡秀朋]障がい者の「もっと学びたい」を応援する「L's College」。みんなの「働きたい」を考える「就労支援室」。4月からAダッシュでは2つの新たな試みがスタートしましたー。



[四井恵介]4月から新年度、抱え込んでいたものをいろいろ整理して、新しいことに手を伸ばしたいなと。そして、4月29日、「どっぴり昭和町」は10回目を迎えます。



[高橋静香]いよいよ新年度がスタート。やっと今年が始まるような心持ちです。4月は、年末でできなかった家の大掃除と物の整理をして、すっきりしたいです。



[飯田沙保里]今年もまた桜の季節がやってきました。ずいぶんあたたかりましたが、花粉症の人は相変わらずつらそうです...





枝葉末節

『感動と絶望』



hidarmakiの佐々木です。
4月の歳時を発句しました。

花冷えや地鳴り地震の記憶なほ

「感動」とは気持ちのいいことをいう。愉快な気分を導く情動だといえる。人は一生のうちにどのくらいの感動を味わうことだろう。いったい無感動のままだらうか。感動の体験が多ければ多いほど、人生を豊かにしてくれるというのは幻想だろうか。感動が少なければ人生はむなしいものになるだろうか。そして、感動という個人的体験があれば、その人の来し方を通して、人生にいかなる影響をあたえてくれるのだろうか。

感動の体験とは、美術や演劇、スポーツ、芸能、音楽、小説など、いわば人に喜びや楽しみを与えようとする人為的なものもあれば、他郷の風景や、花鳥風月、歴史的風土や地質など自然の現象に心を動かされる場合もある。くもった目を開かせてくれたり、人の教えに共感

するということに、日常的に人間の接触の中から発現することだである。また負の状況を乗り越えたうえでの感動といふものもある。

感動に大きい小さいはない。その場限りの感動もあれば、いつまでも記憶の底で、自分だけが大切に残しておきたいひそやかな感動もある。感動は、ひとりひとりが違った生活や生育環境を背景にして生まれてくる個人的なものだ。現今のマスコミや企業が垂れ流す、複製でバーチャルな感動の大安売りに、感動する人たちもいるが、本来、感動に類型はない。人はそれぞれが違う感動を経験するはずなのだ。

感動をたくさん経験することは、満たされた感受性を得られ、イメージ・シヨンを働かせる力を持つことだと思う。だから私は感動の経験はたくさんあるほうがいいと思っている。

そこで「絶望」を考えてみる。絶望とは可能性を失くし、失意のどん底をさまよい、望みを断たれることだ。ここでは「絶望」を「感動」の対置語として考えてみたい。感動が幸福を実感させる言葉であり、オーガズムのごとく瞬間的な喜びであふれるものの、比較的喜びの波はそのうち平準化して記憶されていく。それに対し絶望は、不幸のきわみを実感させ

る言葉である。そして何よりも不幸は感動のように簡単に撤退しない。感動に比べて絶望の深さを測りかねる。そしてその不幸に立ち向かう精神力と耐久力が必要で、それらはだいたいに削がれてしまふ。諦念や自暴自棄がかわるがわる顔を出し、どこまでも深い奈落に落ち込んだまま、長い時間を甘受しなければならぬ。つまり負の記憶が果てしなく強制され続ける。

私が95年1月に遭遇した絶望の端緒は大きな震災だった。その震災は自分の仕事や経済を破綻させ、家族をも崩壊させた。長い時間をかけて失望が絶望にとって代わり、私を侵食しはじめた。仕事や収入が激減し、借財が増えたと同時に家族との摩擦が目立ってくる。家族との別離のあと事業を続けながら、派遣労働や深夜の就労で収入を支えるものの、しかし、大いなる借財にとっては焼け石に水のごとくで、進退きわまつていた。

自らの事務所をたたみ、裁判を通して自己破産を決意したのは震災から5年経っていた。この時期、私の事務所があった大阪駅周辺は野宿者たちの巣窟であった。そのうち「俺はこの場所の一人になるかもしれない」という気持ちになり、その思いは膨らんでいく。

野宿などとはしたくないし、街頭で自らをさらしたくもない。仕事探しをしながら偶然ホームレスを応援する仕事を見つけた。

野宿者たちが群居するあちこちの場所を尋ねるたびに「俺はこの場所の一人になるかもしれない」という、当時の絶望を思い出していた。ディランが歌う「LIKE A ROLLING STONE」をまさに実感していた。そして野宿するテントという棲家を訪ね飲食などさせてもらいながら、彼ら自身の来し方や浮き沈みを聞かせてもらった。私自身の体験と重ねあわせながら、それでも野宿という生活を肯定する男たちもいれば、さまざまな障害や差別からはじかれてきた男たち、また身から出た錆と自嘲する男たちもいた。

自分は野宿者にはなれなかったが、野宿者に共感できる人間にはなった。それは合わせ鏡のように、それまで見えなかった自分の側面をみせられて、これまで経験したことがない感動であったと思う。愉快だが気が持たないというのではない。ちよつとは自分も人間に近づいたというような、そんな感情の感動だ。今でこそ幾分薄れかけてきているとはいえ、それを忘れることはない。

hidarmaki



今月の花：クレマチス

花言葉「精神の美、旅人の喜び」【策略】

日本では、テッセンやカザグルマの名前で知られています。ツル性植物の女王と呼ばれています。

暖かくなってきました。かわいい花もたくさん咲いてきています。お店の前の小学校が廃校となり、この四月から生徒がいなくなりまふ。チャイムの音や昼休みの放送、運動会の鼓笛隊の練習の音、学習発表会の練習の音、子供たちのかわいい声、聞けなくなるのが本当にさみしくおもいます。

(なんばひとみ)



ピースのつばやま



『私の健康バロメーター』

朝はお腹がすいて目が覚める。

今日も1日元気にスタート。

昼は空腹でイライラ。

お母さんの帰りがまちどおしい。

夜はゴチソウ満腹で

ウトウト布団にもぐりたい。

11才と3ヶ月の私

人の年なら82才。

動作も仕草も高齢ドッグ。

だけど食欲は

まだまだ若いぞワンワン!!



赤井まゆみ

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。



思ったら！ にしなりカレンダー

「新年度をみんなのチカラで」編

地域のチカラ！

どっぷり、昭和町。

西成区のおとなり、阿倍野区の昭和町で開催されている地域イベントで、今年で第10回目を迎えます。音楽あり、屋台あり、パフォーマンスに、ワークショップ、体験遊びなどなど、盛りだくさん。楽塾も参加します！

日時：4月29日（水・祝）10:00-17:00

参加：無料（一部有料）

会場：阿倍野区昭和町界隈

（桃ヶ池公園、文の里商店街、阪南中公園等）

主催：どっぷり昭和町実行委員会

TEL：06-6624-1127

MAIL：showacho@cr-assist.co.jp

WEB：http://showacho.jp/

自然のチカラ！

「谷町空庭 米粉LOVERSのレシピブック・イラスト&マルシェバッグ展」

ASHITA no HAKO BOOKSから新しい本が来ました。今度はレシピ本！谷町空庭さんに集う米粉LOVERSたち（米粉が大好きな皆さん）のレシピをイラストレーター MONのカラフルなイラストで紹介します。本のお披露目と原画展示、マルシェにお出かけしたくなるMONの新作トートバッグなど。

日時：4月25日（土）-5月3日（日・祝）

13:00-19:00（最終日17:00）

会場：あしたの箱（西成区岸里東1-6-7）

TEL：06-6659-8892

MAIL：info@ashitanohako.com

WEB：http://www.ashitanohako.com/

子どものチカラ！

マナビバ@市民交流センターにしなり210号室

おしゃべりや悩み相談、ボードゲーム、パソコンやタブレット、学習に関するサポートや就職サポートなどなど、高校中退者のためのフリースペースが西成にあります！開いている日は、いつでも立ち寄れて、自由に過ごせます。

日時：毎週火・木曜日10:00-16:00

対象：高校中退者※不登校の生徒さんや中卒後進路未決定の方でも大丈夫です

場所：大阪市立市民交流センターにしなり210号室
（西成区長橋2-5-33）

問合：一般社団法人ヒューマンライツ教育財団
（担当：菊池）

TEL：06-6568-1840

MAIL：info2@human-ref.jp

リサイクルのチカラ！

フリーマーケット

リサイクルを通して、楽しい出会いをしませんか？フリーマーケットをはじめ、かっこバザールや大抽選会を開催。地元の学校やグループによる作品展や音楽祭なども集まる、楽しい春のイベント！フリーマーケットです。

日時：4月26日（日）11:00-16:00（雨天決行）

会場：大阪市立市民交流センターにしなり
（西成区長橋2-5-33）

主催：ヒューマン地域振興協会、
大阪市立市民交流センターにしなり

問合：大阪市立市民交流センターにしなり

TEL：06-6561-0007

FAX：06-6561-9154

あとがき

最近、大阪では週末が雨、ということが続いています。入学式に、花見に、イベントに、いろいろと慌ただしい時期の雨はうとうとしくも感じますが、公園の緑が鮮やかになるのを目にすると、ほっとします。なびも新年度を迎え、新しい特集のスタートです。

（平川）

なび4月号（vol.98）

発行日：2015年4月1日（創刊日：2007年1月1日）

発行：株式会社ナイス

発行人：代表取締役 富田一幸

印刷：有限会社前山企広

住所：大阪市西成区長橋3-6-33 電話：06-6563-1156

E-mail：info@nice.ne.jp

url：http://www.nice.ne.jp/

編集長：佐々木敏明

編集：田岡秀男、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里

イラスト：hidarimaki

デザイン：高橋静香

表紙の写真：「軒先で番をする猫」西成区萩之茶屋で撮影

